

ごあいさつ



男女共同参画の新たなステージに向けて

阿部 宏 慈

山形大学理事・副学長
男女共同参画推進室長

山形大学男女共同参画推進室の事業に対してご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。ここに、令和元年度山形大学男女共同参画報告書をお届けいたします。今回の報告書では、文部科学省科学技術人材育成費補助事業である「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」の活動報告も合わせて行っております。

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」は5年目を終えるところです。中間評価では、女性研究者が働きやすい環境や制度の整備、女性研究者割合と上位職割合の増加、研究業績数の増加などの目標を達成していることが認められています。後半の自主運営期間においても3機関の密接な連携を継続し、女性研究者のさらなる増加を目指すとともに、これまで以上に山形大学COIとの連携を強化し、「有機エレクトロニクスを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画」という研究テーマを実践し、これまでの研究成果の社会実装と地域還元を図っています。今年度はCOIとの共催で地域連携プラットフォーム会議（8月）、3機関合同シンポジウム及び女性研究者・若手研究者の交流会（11月）を開催しています。さらに、他機関への波及の面においても、全国ダイバーシティネットワークの幹事大学として南東北のネットワークを構築し、山形県内のダイバーシティ推進ネットワーク会議の活動を一層充実させることができました。まさに県内ダイバーシティネットワークと全国ネットワークのつなぎ役として、地域を牽引する段階に至っています。

さて、山形大学は、平成21年に男女共同参画推進室を設置し、平成22年に策定した「山形大学男女共同参画基本計画」に基づき、男女共同参画推進委員会を中心に男女共同参画を推進してきました。この間、文部科学省「女性研究者支援モデル育成事業」（平成21～23年度）や「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業」（平成27～令和2年度）の採択を経て、充実を図ってきたところです。この計画期間が令和元年度で終了することから、昨年度は本学の男女共同参画の現状を把握し、これまでの成果や今後の課題を明らかにするための学内アンケート調査を実施しました。

今年度は、山形大学男女共同参画基本計画（第2次）を策定し、併せて関連規程の一部改正を行いました。策定にあたり、男女共同参画推進委員会にワーキンググループを設置して検討を重ね、3回の男女共同参画推進委員会を開催しました。昨年度実施した学内アンケートの結果を踏まえ、我が国の男女共同参画に係る動向と国立大学協会における目標等に鑑み、男女共同参画に加えダイバーシティを一層推進することを目的に方針及び具体的施策を定めました。女性教員比率や女性管理職比率はこれまで以上に高い目標を設定し、無意識のバイアスや性的指向・性自認等への配慮なども明記しました。目標を達成するため、必要な改善措置等について男女共同参画推進室を中心に各キャンパス等において具体的に検討し、達成状況を毎年点検していきます。来年度は、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」の最終年度ですが、相乗効果にも期待しています。

今後、山形大学は男女共同参画の新たなステージに進むことになります。「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」を使命とし、男女共同参画及びダイバーシティを推進し、学生と教職員が性別等にかかわらず個性と能力を発揮できる大学づくりを加速していきます。大学教育の転換期と言われる中、様々な困難も予想されますが、関係各方面の皆様方のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。